

# 世界は今

県人リポート

225

モノを安く買いたいと思つのは消費者の自然な欲求だ。これは世界共通のことだが、「お客さまは神様」として、顧客至



片倉直彦さん(かたくら なおひこ) 宮城・泉松陵高、千葉商科大商経学部卒。ヤナセ入社。その後、生命保険会社、情報通信企業で営業、販売促進に携わる。2008年からドイツに生活拠点を移し、11年6月に妻と老舗オーガニック店を引き継ぐ。フランクフルト在住。46歳。大船渡市盛町出身。

## 片倉直彦さん(大船渡市出身) ドイツ

上主義を経営理念とする企業の数を数えれば、日本が圧倒的に多いだろう。世界のどこにもない至れり尽くせりのサービ

### 安売り、現場に負荷 農業連盟が企業に抗議

ス。この恩恵を普段の生活で誰もが享受できていて、友人が帰宅する明日提供を日々求めており、傾け続ける企業努力のたまものであり、日本のサービレベルは奇跡的であると思える。

例えば、日本なら明日が誕生日の友人のため、今からネットショップに、今からネットショップ



ドイツのフェアトレード会社が扱う商品。コーヒーや紅茶など多少は割高になるが、立場の弱い生産者や労働者を守り、消費者からも支持されている



の手段だが、その裏に生じるゆがみは小さくなく、消費者以外の製品に関わっている多くのヒトたちを、決して幸せにはしない。

東日本大震災を経験した日本では「絆」という語が広く使われるようになってきている。被災地や被災者の痛みを忘れず、手

有機農業は自然の力に大きく頼るだけに、農業助けを継続しようという意味合いだ。農漁業に携わってきた多くの被災者たちが、あまりに多くのモノを失いながらも、復興再建に挑む姿に敬服させられる。

そんな現場を知りながら、低価格で仕入れよ育てた収穫物や漁獲物とする大手小売りに対して、2年ほど前にドイツ農業連盟が「けちるのれを食べることで多くのヒトたちが気持ちよく復興の手伝いができるようドイツから祈るばかりだ。

(日曜日に掲載します)